

深澤祐二(東日本旅客鉄道(株)代表取締役社長)、柴田裕(JR 東日本スタートアップ(株)代表取締役社長)、松田崇弥((株)ヘラルボニー代表取締役社長)、松田文登((株)ヘラルボニー代表取締役副社長)

概要

駅や建設工事現場等を「ステーション・ミュージアム」としてラッピングし、魅力あるまちづくりに貢献。知的障害のあるアーティストの作品を再利用可能な素材を活用して展示し、展示後のプロダクト販売でアップサイクル(単なるリサイクルでなく価値を付加した再循環)を実現。鉄道会社、スタートアップ、全国の福祉施設との連携で、廃棄物の削減及び知的障害のあるアーティストの芸術活動支援と所得向上に貢献。

目的

身近な「駅」や「鉄道」をきっかけに、SDGsの達成に向けた取組への理解を深め、多くの人に参加する機会を創出することで、社会全体の意欲醸成を促すとともに、障害のあるアーティストの芸術活動支援と所得向上及びスタートアップの成長を支援。

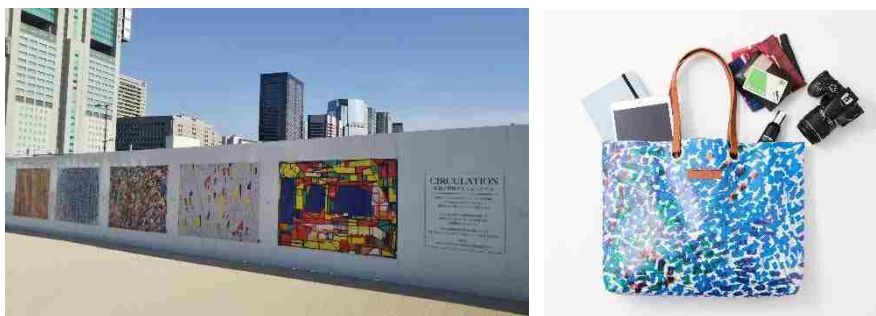
内容

大型の掲示物に多用される塩化ビニールシートは焼却時にダイオキシン類等が発生するが、本取組では再利用可能素材(防水布)を使用。福祉分野のスタートアップとの連携により、一度掲出した知的障害のあるアーティストの作品をアップサイクルトートバッグとして販売することで、屋外広告物から発生する廃棄物削減とともにアーティストの芸術活動を支援。

効果

従来の屋外広告で発生していた作品10点分(60㎡)の廃棄物を削減し、トートバッグ5デザイン計80点は予約完売。作品提供料とバッグ売上により1作品あたり約12万円の報酬を福祉施設及び知的障害のあるアーティストに還元。

(左から、高輪ゲートウェイ駅前特設イベント会場、アップサイクルされたトートバッグ)



ココがポイント!

「循環型のものづくり」でSDGsを推進する取組。ステーション・ミュージアムと福祉分野のスタートアップによるアップサイクルをパッケージ化することで、魅力あるまちづくり、障害のあるアーティストの芸術活動支援、スタートアップ支援に貢献。